

## 学 会 記 事 Newsletter

### 第 3 回 国際細胞生物学会議

本学会が後援する上記の会議が、1984年8月26～31日、東京の京王プラザホテルで開催されることとなり、第1回サーキュラーが発行された。希望者は下記まで。

〒701-02 岡山市山田 2117 重井医学研究所内

第3回国際細胞生物学会議 組織委員会事務局 沖垣 達

### 理 事 会

日 時：昭和57年9月11日 12:00～16:00

場 所：ルビーホール

出席者：井上英二会長、井関尚栄前会長、松永 英、三輪史朗、中島 章、佐々木本道、笹月健彦各理事、外村 晶編集委員長、池内達郎、黒木良和各幹事。

議 題：討議に先立ち、9月5日逝去された田中克己名誉会員の御冥福を祈った。また永年の御功績に対し、10月1日、日本人類遺伝学会と東京医科歯科大難治研人類遺伝学部門の合同葬儀が行われることが報告された。

1. 57年度大会準備状況について、松永大会長より報告があった。
2. 58年度大会準備状況について、松本次期大会長（代理庶務幹事）の報告があった。
3. 各種委員会報告として、編集、用語、学会賞選考各委員会および旧教育委員会の報告がなされた。
4. 会計報告（中島理事、池内幹事）  
会費納入状況と維持会員入会状況が報告され今後の対策が検討された。また文部省科研費による学会誌刊行助成の決定が報告された。
5. 理事担当事項等報告  
科研費、日本医学会評議員、学術会議関連、国際人類遺伝学会常置委員等につき各担当者の報告があった。
6. 昭和59年度大会開催地および大会長につき討議がなされた。
7. 名誉会員の推薦について討議された。
8. 「遺伝相談ネットワーク委員会報告」(案)の内容および取扱いについて討議がなされた。
9. 会長の任期問題が討議され継続審議となった。 (庶務幹事 黒木良和)

### 第 21 回 日本医学会総会個人登録申込の案内

来年4月8日～10日、大阪で開催される第21回医学会総会の個人登録申込案内が庶務のところに来ております。登録料の早期納入割引もあります。ご希望の方は庶務幹事まで。

(庶務幹事 黒木良和)

### 日本学術会議と学協会との懇談会

昭和 57 年 6 月 21 日、日本学術会議大会議室にて開催され、日本学術会議伏見会長より、第 85 回日本学術会議総会の報告があった。さらに日本学術会議改革試案、会員選挙規則の一部改正、研究連絡委員会の組織運営、国際学術交流、国際地球観測百年記念、および核戦争の危機と核兵器廃絶に関する声明について、それぞれの委員長より報告があった。(理事 笹月健彦)

### 学術会議改革試案を採択

#### ——日本学術会議第 85 回総会報告——

多くの懸案をかかえ注目されていた日本学術会議第 85 回総会は 5 月 19・20・21 の 3 日間にわたり開催された。この間に 161 件の報告、8 件の議案が提出されたが、終始活発な質疑討論の後、議案は原案どおり、あるいは若干の修正のうえで、すべて承認された。採択された改革試案(「月報」5 月号掲載)をもとに今後学・協会をはじめ広く各方面の意見を求めることとなり、学術会議の自主改革に向かって大きく動き出すこととなった。

会長あいさつ及び諸報告について

開会あいさつの中で伏見会長は前日の各部会で改革第 2 次案に多くの意見が出されたことに触れ、総会での活発な審議を期待すると述べると共に、種々の困難はあるが、科学者の総意を結集して自主改革を進めたい、また今総会で認められれば改革案を叩き台として各方面への働きかけを強めたい旨を表明した。

続いて、口頭あるいは文書による 161 件の諸報告が行われた。

会長からの科学技術会議報告に関連して、科学振興調整費の重要性からみて、学術会議として会長をバックアップするための何らかの組織が必要との意見があった。

「改革第 2 次案の取扱い(申合せ)」について

今総会の重要議題の一つである本件については、第 1 日目午後から第 2 日目午前にかけて、6 時間を超える真剣な討論が展開された。

今年 2 月の第 84 回臨時総会で示された第 1 次案に対して、その後提出された会員、有権者の意見メモなどを参照して、改革委員会が作成した第 2 次案を「本会議としての改革試案として学・協会、科学者その他関係方面に提示して意見を求めることを了承する」との申合せが提案され、若干の修正を加えてほぼ満場一致で可決された。

同試案は、第 1 部改革の基本的考え方、第 2 部個別的提案から成っている。

「基本的な考え方」をめぐる論議

審議のなかで「自主改革」の「自主」の意味が質問されたが、会長は「210 人の会員だけで改革するのではない、現会員で案をつくり、それを科学者その他各方面に提示して意見を求め、最終的には学術会議総会で決める」と答えた。

また、従来すべての科学者の意見を結集し、科学行政に反映する努力が足りなかったこと、より多くの有権者登録をはかる必要があること、会員のあり方を明確にすること、学会代表者の審議への直接参加の道を開くことなどの意見が出された。

個別的提案について

地方区問題については、地方区活動の重要性を認めつつも、選挙制度としての地方区のあり方が論議の焦点となった。結局、改革委員会から改めて提案された「地方区組織活動の重

要性は認めるが、選挙制度としての地方区については全国区選挙との関係を考慮して抜本的に見直しを行う」ことで承認された。

「有権者、学・協会との結びつきの強化」・「選挙制度及び内部組織の再編」についても種々の意見が出されたが、直接選挙制を堅持し自主性、独自性を有する国の機関としての学会の任務と役割を果たすことをめざす点では一致していた。

今後の改革案策定作業を精力的に推進するために、改革委員会に必要な分科会を設置し、委員の増員をするなどして活動を強化することをきめた。

「核戦争の危機と核兵器廃絶に関する声明」について

この案件も今総会の主要議題の一つであった。

核兵器廃絶はもはや議論の段階ではなく実践の課題であり、各国政府の行動する意志こそ重要との認識に立って、今こそわが国政府が国際社会を軍縮に向けて動かす原動力となるべき特別の責任を負っているとわれわれは確信する。学会は、創立以来平和に対する科学のあり方に重大な関心を払ってきたが、核によって国の安全をはかるといふ考えからの速やかな脱却と新しい国際秩序の形成の必要性を強く認識し、科学者がその方途の探究に寄与することが不可欠と考える。われわれは各国政府の良識に切に期待するとともに内外の科学者に向かって理解と連帯を訴える。

この要旨の声明案が、平和と科学特別委員会と平和問題研究連絡委員会から共同提案された。これに対し、声明を出すことに反対もしくは消極的な意見、それへの反論などの活発な討議の後、賛成多数で可決された。

その他の議案について

以上のほか、「国際地球観測百年記念に際して(声明)」、「日本学会の関与する特定地域国際学術団体との学術交流について(申合せ)」、「国際会議代表派遣要領の改正について」、「日本学会会員選挙規則の一部改正について」、「第12期における第85回総会以降の研究連絡委員会等の組織・運営について(申合せ)」が提案され、いずれも原案どおり可決された。  
(日本学会会議広報委員会)

## GENETICS IN CLINICAL ONCOLOGY

October 7 and 8, 1982

次の4 session からなるコースが本年10月ニューヨークで行われます。ご希望の方は直接下記にご連絡下さい。

- Session 1. Genetic theories of cancer etiology
2. Genetic and cellular engineering in cancer treatment
  3. Chromosomes and cancer
  4. Genes and cancer
  5. Workshop

R.S.K. Chaganti, Ph.D.  
Laboratory of Genetics  
Memorial Hospital for Cancer and Allied Diseases  
1275 York Avenue  
New York, N.Y. 10021